

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901019		
法人名	有限会社 ぞう		
事業所名	グループホーム ぞう (ユニット1)		
所在地	旭川市末広1条13丁目2番10号		
自己評価作成日	平成23年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月23日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901019&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは認知症の方々の安全・安心・安定した生活を可能とする地域づくりや、夢をもって働くことができる魅力ある職場環境への取り組みなどを行うとともに、さらなるサービスの向上を目指し、地域住民に寄り添いながら、超高齢化社会においても、一人ひとりが「尊厳」を持って暮らしてゆくことができるための支援の実現にむけて努力してゆきたいと考えています。「ぞう」に対する地域の信頼を高め、ひいてはグループホームの発展に資するためにも他ホームとの交流や研修等による質の向上、地域の人々に理解や協力を得るための啓蒙活動にも課題は多くありますが努力してゆきたいです。私達の課題への取り組みにむけた行動が、より多くの個人や地域社会への啓蒙となって、認知症という障害を持った方々のより良い生活にふさわしいものとなることを通じて、私達の「やりがい」が明るい「つながり」ある社会の実現を目指したいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<事業所の力を活かした地域貢献と交流の促進>
町内会と協力して、一人暮らしの高齢者の安否確認や見守りを実践したり、認知症サポート養成講座への協力や地域の研修等にに関わりながら事業所の持つ機能を地域に還元している。また、小学校の運動会や東鷹栖ふれあい祭り参加等を通じて地元の人々との交流を図っていると共に認知症への理解や啓蒙に活かしている。

<職員の段階に応じた研修の充実>
外部講師を招聘して、法人内のスタッフ研修会の開催や(一社)グループホーム協会、ケア研究会等の外部研修にも積極的に参加し、職員の段階に応じたスキルアップに取り組んでいる。また、安全対策委員会や身体拘束廃止委員会等で職員の自己啓蒙の場を提供し、事例検討の機会や終末期のあり方等を検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、ホームと地域の関係を強化すべく、おりにふれて会話の機会を設けている。ホームの理念の中にも「人のために、社会のために」と謳っている。	事業所独自の理念及びユニット毎の理念をつくりあげ、その実践のために職員個々の目標を明確にしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入は継続。町内の行事も住民として積極的に参加。住民も自然に訪問してくれる。	地域の一人暮らしの高齢者の安否確認や見守り、認知症サポーター養成講座への協力、小学校の運動会、東鷹栖ふれあい祭り参加を通じ地元の人々との交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人代表・副施設長は実績・実践を踏まえて地域の様々な研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。サポーター養成講座にもメイトとして積極的に応じている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員メンバーの再構築を図り、検討事項や懸案事項が増え積み上げていくものが増えた。またホームの取り組み内容についても報告し、意見等をもらっている。	2ヶ月毎に開催し、具体的活動計画や各委員会(身体拘束廃止、安全対策等)の活動報告等を行い、町内会役員が数多く参加して活発な意見交換でサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、行政担当者も運営推進会議に出席可能になり、これを機に積極的に連携をとって行きたい。	市担当者や包括支援センターとは、日頃から連絡を密に取りながら情報交換を行い、ケアサービスの質の向上のために連携を深めるように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束によって入居者様が受ける身体的・精神的弊害について十分理解できるよう、委員会を通じて伝わっている。入居者様の状態を把握し日中は施錠していない。	身体拘束廃止委員会で、代表者および全ての職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	おりにふれて理解浸透に心がけ、外部研修にも参加。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとにスタッフに説明。対応が必要と思われる入居者様はそのつどスタッフに説明し支援につなげている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり説明している。ホームの対応理念、利用料金や、起こりうるリスクや体調変化時の対応等々、最期のあり方についても心がけて説明している。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族の会話・態度から可能な限り察知し理解に努めスタッフ会議にて共有している。運営推進会議参加の家族も積極的に他メンバーに意見等を伝えている。	家族アンケートで要望や意見等良く話し合われている様子が伺える。また、来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議、各部会等々の意見を吸い上げ入居者様の生活利益に反映するようにしている。	職員アンケートの実施やユニット会議、各委員会を通じて、職員の意見や提案を運営に反映する機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自身の介護現場就労経験を基にスタッフの思いがどこにあるのか心がけている。「役割」と「やりがい」を体感出来るよう学び、実行している。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全職員の力量・能力を勘案し、法人内外問わず研修の機会を増やしスキルアップを願っている。またその手法を学ぶため代表者自らも学ぶ機会を多く持っている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・副施設長は同業者のネットワークが強く、また他事業所との協働にてスタッフ研修を開催している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の思いや不安を受け止めご本人が今何を求め、今何が大切か、その人を見つめ、その人を知ろうとしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の不安やご苦勞を真摯に受け止めてから次の段階へ進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で早急か否か適切に判断しホームのネットワークを活用している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、嬉しさなどを知ること努め、日々の生活の中で分かち合い、共に支えあえる関係に留意している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いも尊重しつつ入居者様の様子や言葉を伝える機会を多く持つことで、スタッフとご家族が入居者様を中心に感じる場面がどんどん増えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りご本人の思いや状態に合わせて、懐かしい場面を振り返る機会や外出に心がけている。	小学校の運動会見物や地域の盆踊り等の行事参加、レクリエーション委員会での外出計画の作成など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性について情報連携し、全てのスタッフが共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので、配慮し見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が修了しても、状態確認や相談にのっている。またご家族が訪ねてくださる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話・表情などからご本人のメッセージを受け取るよう努め記録しスタッフ間で共有している。意思疎通が困難な方にはご家族等から情報を頂いている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われ、介護計画に反映している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際または生活支援に必要と感じた場合は可能な限りご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。	センター方式の活用や本人、家族の意見や思いを反映している。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事・水分・排泄等身体状況および日々の生活の様子や言葉・メッセージを記録し、スタッフが共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況・要望に柔軟に対応するよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域の中で生活できるよう民生委員・市民委員会・地区社協・町内会と意見交換する機会を持っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。また内科医等の医師の往診が受けられ適切な医療を受けられるよう努めている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっていて、医師の往診や受診等で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフは日々の健康管理や医療面の大切さを十分理解し、ホーム内看護師と常に連携を図っている。また協力医院の看護師ともとても良い関係である。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入居者様のダメージを極力防ぐために頻繁にスタッフが出向き、早めの状況確認に努め早期退院につなげている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、ご家族・医師・看護師等を交えて話し合いを行っている。状態の変化があるごとに、ご家族の気持ち・ご本人の思いに配慮し支援を続けている。4名を今年度看取りさせていただいた。現在も1名対応させて頂いている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、ターミナルケアを実践している。また、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを重ねています。今後は、家族等の意向がどこにあるのか、さらに見極めていくことを期待します。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご本人の思いを大切にしつつ、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。急変時はすぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連携している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回入居者様とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、町内会でもお願いしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。消防署の協力を経て避難訓練を定期的に行っている。	地域との協力関係を築き、年2回火災避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。また、スプリンクラーの設置や災害時の取り組みを便りで情報提供している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いのうちにスタッフに「尊厳」に対する意識づけを行い、声かけや態度に入居者様が傷つかないように対応している。スタッフ間でも注意しあうように努めている	スタッフ研修、日々の業務を通じて誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定するのではなく、一人ひとりに可能な限り選択肢を揃えご本人に決めていただいている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。強制的な日課はありません。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。ご自身で困難な方はスタッフが配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態・能力に合わせて食事一連の流れを大切な活動の一つにしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、栄養委員会で、毎日の調理や食事の準備等楽しんで行えるよう検討されている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録しスタッフは情報を共有している。摂取が難しい場合も、形態・環境を変えたり工夫している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全てのスタッフが理解し、それぞれの方の能力に応じて支援している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりのパターンを可能な限り把握しトイレへ誘導、オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、トイレで排泄できるように時間を見計らって支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の生活状況で食事・排泄・運動量などを考慮し、自然排便に努めている。下剤使用に関しても個々の状態を看護師・医師と相談している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む人もいるが、声かけ・対応を工夫し、羞恥心・恐怖心に配慮している。判断可能な方々は曜日や時間をご本人が選択している。	入浴拒否の強い利用者にも個々に沿った支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し支援している。判断が困難な方はスタッフが判断している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方変更があった場合は、全スタッフが把握するまで申し送る。また薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を理解するよう徹底している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりそれぞれに發揮して頂いている。お願いできそうな事は頼み、感謝の気持ちを伝えている。習慣になっている方は自然に行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、生活のはりにつながるよう日常的に散歩、買物あるいは外食、温泉と出かけている。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、レクリエーション委員会で戸外に多く出かけられるように計画を立て、夏祭り参加や花壇の花植え等支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意を得てご自身管理が基本だが難しい方はホームでの預かり金から外出時にお渡ししている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話回線を引き自由に使用している。その他の方はホームの電話を自由に使用している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮している。家具の配置換え等も全スタッフが日常的に話し合っている。居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものを工夫し活用している。	テーブルや椅子、ソファの配置の工夫や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しではあるが一人ですごせたり、少人数で過ごせる場所を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人やご家族と相談しながら使いなれた家具・寝具・家族の写真等が持ち込まれている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況にあわせた環境整備に努め、状態が変化し混乱が生じた場合はその都度スタッフで話し合い、不安材料を取り除いている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901019		
法人名	有限会社 ぞう		
事業所名	グループホーム ぞう (ユニット2)		
所在地	旭川市末広1条13丁目2番10号		
自己評価作成日	平成23年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成23年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは認知症の方々の安全・安心・安定した生活を可能とする地域づくりや、夢をもって働くことができる魅力ある職場環境への取り組みなどを行うとともに、さらなるサービスの向上を目指し、地域住民に寄り添いながら、超高齢化社会においても、一人ひとりが「尊厳」を持って暮らしてゆくことができるための支援の実現にむけて努力してゆきたいと考えています。「ぞう」に対する地域の信頼を高め、ひいてはグループホームの発展に資するためにも他ホームとの交流や研修等による質の向上、地域の人々に理解や協力を得るための啓蒙活動にも課題

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901019&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年6月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、ホームと地域の関係を強化すべく、おりにふれて会話の機会を設けている。ホームの理念の中にも「人のために、社会のために」と謳っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会加入は継続。町内の行事も住民として積極的に参加。住民も自然に訪問してくれる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人代表・副施設長は実績・実践を踏まえて地域の様々な研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。サポーター養成講座にもメイトとして積極的に応じている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員メンバーの再構築を図り、検討事項や懸案事項が増え積み上げていくものが増えた。またホームの取り組み内容についても報告し、意見等をもらっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度より、行政担当者も運営推進会議に出席可能になり、これを機に積極的に連携をとって行きたい。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが身体拘束によって入居者様が受ける身体的・精神的弊害について十分理解できるよう、委員会を通じて伝わっている。入居者様の状態を把握し日中は施錠していない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	おりにふれて理解浸透に心がけ、外部研修にも参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとにスタッフに説明。対応が必要と思われる入居者様はそのつどスタッフに説明し支援につなげている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとり説明している。ホームの対応理念、利用料金や、起こりうるリスクや体調変化時の対応等々、最期のあり方についても心がけて説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族の会話・態度から可能な限り察知し理解に努めスタッフ会議にて共有している。運営推進会議参加の家族も積極的に他メンバーに意見等を伝えている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議、各部会等々の意見を吸い上げ入居者様の生活利益に反映するようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は自身の介護現場就労経験を基にスタッフの思いがどこにあるのか心がけている。「役割」と「やりがい」を体感出来るよう学び、実行している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は全職員の力量・能力を勘案し、法人内外問わず研修の機会を増やしスキルアップを願っている。またその手法を学ぶため代表者自らも学ぶ機会を多く持っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・副施設長は同業者のネットワークが強く、また他事業所との協働にてスタッフ研修を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りご本人の思いや不安を受け止めご本人が今何を求め、今何が大切か、その人を見つめ、その人を知ろうとしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の不安やご苦勞を真摯に受け止めてから次の段階へ進めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた段階で早急か否か適切に判断しホームのネットワークを活用している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、嬉しさなどを知ること努め、日々の生活の中で分かち合い、共に支えあえる関係に留意している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いも尊重しつつ入居者様の様子や言葉を伝える機会を多く持つことで、スタッフとご家族が入居者様を中心に感じる場面がどんどん増えている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限りご本人の思いや状態に合わせて、懐かしい場面を振り返る機会や外出に心がけている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性について情報連携し、全てのスタッフが共有できるようにしている。また心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので、配慮し見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、状態確認や相談にのっている。またご家族が訪ねてくださる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話・表情などからご本人のメッセージを受け取るよう努め記録しスタッフ間で共有している。意思疎通が困難な方にはご家族等から情報を頂いている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際または生活支援に必要と感じた場合は可能な限りご本人・ご家族・関係者より情報を頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、ご本人の全体像を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含めスタッフ全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様一人ひとりのファイルを作成し、食事・水分・排泄等身体状況および日々の生活の様子や言葉・メッセージを記録し、スタッフが共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況・要望に柔軟に対応するよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域の中で生活できるよう民生委員・市民委員会・地区社協・町内会と意見交換する機会を持っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。また内科医等の医師の往診が受けられ適切な医療を受けられるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフは日々の健康管理や医療面の大切さを十分理解し、ホーム内看護師と常に連携を図っている。また協力医院の看護師ともとても良い関係である。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は入居者様のダメージを極力防ぐために頻りにスタッフが外向き、早めの状況確認に努め早期退院につなげている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末に対する対応指針を定め、ご家族・医師・看護師等を交えて話し合いを行っている。状態の変化があるごとに、ご家族の気持ち・ご本人の思いに配慮し支援を続けている。4名を今年度看取りさせていただいた。現在も1名対応させて頂いている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご本人の思いを大切にしつつ、ご家族と話し合い、ご本人が安心して終末期を過ごせるように取り組んでいる。急変時はすぐ対応して頂けるよう医療機関とも密に連携している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回入居者様とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、町内会でお願ひしたり運営推進会議で協力を呼びかけている。消防署の協力を経て避難訓練を定期的に行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し合いのうちにスタッフに「尊厳」に対する意識づけを行い、声かけや態度に入居者様が傷つかないように対応している。スタッフ間でも注意しあうように努めている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定するのではなく、一人ひとりに可能な限り選択肢を揃えご本人に決めていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホームの流れはあるものの、一人ひとりの生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。強制的な日課はありません。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。ご自身で困難な方はスタッフが配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態・能力に合わせて食事一連の流れを大切な活動の一つにしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録しスタッフは情報を共有している。摂取が難しい場合も、形態・環境を変えたり工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全てのスタッフが理解し、それぞれの方の能力に応じて支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりのパターンを可能な限り把握しトイレへ誘導。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の生活状況で食事・排泄・運動量などを考慮し、自然排便に努めている。下剤使用に関しても個々の状態を看護師・医師と相談している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む人もいるが、声かけ・対応を工夫し、羞恥心・恐怖心に配慮している。判断可能な方々は曜日や時間をご本人が選択している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮し支援している。判断が困難な方はスタッフが判断している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方変更があった場合は、全スタッフが把握するまで申し送る。また薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を理解するよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりそれぞれに發揮して頂いている。お願いできそうな事は頼み、感謝の気持ちを伝えている。習慣になっている方は自然に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、ご本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、生活のはりにつながるよう日常的に散歩、買物あるいは外食、温泉と出かけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意を得てご自身管理が基本だが難しい方はホームでの預かり金から外出時にお渡ししている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご自身で電話回線を引き自由に使用している。その他の方はホームの電話を自由に使用している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮している。家具の配置換え等も全スタッフが日常的に話し合っている。居心地のよさや心身の活力を引き出すために、生活感や季節感のあるものを工夫し活用している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しではあるが一人ですごせたり、少人数で過ごせる場所を設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人やご家族と相談しながら使いなれた家具・寝具・家族の写真等が持ち込まれている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況にあわせた環境整備に努め、状態が変化し混乱が生じた場合はその都度スタッフで話し合い、不安材料を取り除いている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ぞう

作成日: 平成 23 年 6月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	現在も在る程度行えていると思うのだが、重度化した場合や終末期のあり方、ホームの対応について、できるだけ早くからご本人・ご家族・医師等と話し合いを重ねご本人・ご家族の意向を確認し対応方針を図ることをもっと強化したい。最期をホームでとの場合が増えてきたため。	ご本人やご家族の意向、ご本人にとってどうあったら良いのか、ホームが対応しうる最大の支援方法を踏まえて全スタッフで話し合っていく。	全スタッフいま1度看取りの指針の確認を行いホームの「できること・できないこと」を見極める。 困難なこと、不安なこと等をスタッフ全員で素直に話し合う 今以上にご本人・ご家族の意向踏まえ医師・スタッフが連携をとる。 チームケアの重要性を学び「尊厳」の本質に近づく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。